

北岡理事長が南米を初訪問 アルゼンチンやブラジルの要人と面談

01



バルパリーヨ国家統合大臣から国家市民防衛勲章を受章した北岡理事長



ブラジル北部に位置するトマス第二移住地を訪問し、日系人と意見交換を行った

北岡伸一 JICA 理事長は、2月5日から13日にかけてアルゼンチンとブラジルを訪問し、両国の要人と開発戦略や協力方針について意見交換を行うとともに、日系社会や JICA の協力現場を視察しました。

最初の訪問地アルゼンチンでは、2015年12月に発足した現マクリ政権の開放的な経済政策により、日本や欧米諸国の企業進出、投資促進が期待されています。ガブリエラ・ミケティ副大統領をはじめとする政府要人と面談した北岡理事長は、日本企業や現地の経済団体などと連携しながら、製造業の生産現場での作業を見直す「カイゼン」を通じて、企業の生産性向上や人材育成を支援することを表明しました。

次に訪れたブラジルでは、昨年のミシェル・テメル大統領の就任後、外交・政治・経済の安定に向けた政策が次々と打ち出されています。北岡理事長は、エルデル・バルバリーヨ国家統合大臣やマルコス・ベゼーハ・アボッチ・ガウヴァオン外務次官ら政府要人と面談し、国際場裏における日本とブラジルの協力が重要であるとの認識を共有しました。そして、両国の相互理解をさらに促進するために、人材交流を一層深めていくことが重要である点について合意しました。

また、これまでの防災を主とする JICA の協力の成果に対して、バルパリーヨ国家統合大臣から北岡理事長に国家市民防衛勲章が授与されました。今回の両国訪問のもう一つの目的は、アルゼンチンに約6万5000人、ブラジルに約191万人が在住するといわれる日系社会を訪れることです。JICA は日系社会との連携を重視し、同社会の課題である高齢化に伴う医療・福祉面の充実や、日系社会の人材育成に取り組んでいます。

北岡理事長は、両国で JICA の日系社会支援の現場視察や日系社会代表者との懇談を行った他、ブラジルでは日本人移民の移住地の一つであるトマス第二移住地を訪問し、住民と意見交換を行いました。今回の訪問を通じて、日系社会との新たなパートナーシップ構築の一步を踏み出しました。

エチオピアの女性起業家を支援

02



署名式に出席した神エチオピア事務所長(左)とアドマス・ネベベ財務経済協力国務大臣(右)

2月24日、JICA はエチオピア政府との間で、「女性起業家支援事業」を対象に55億円を限度とする円借款貸付契約に調印しました。世界銀行などとの協調融資事業である本事業は、アフリカで初めて女性に特化した開発金融融資です。

同国では、女性起業家が経営する小零細企業からの融資に対する需要は年々増加していますが、金融機関の資金不足などの理由から、資金の借り入れは容易ではありません。また、融資の担保に必要な家や土地が男性名義で登録される傾向があることから、特に女性起業家にとっては融資の機会を得ることが困難な状況にあります。

本事業では、経済活動が活発な同国の主要都市において、女性の起業家が経営あるいは共同経営する企業に対して、資金へのアクセスと研修機会を提供。企業の安定した経営基盤の構築に貢献することで、同国における女性の社会的地位の向上や、事業拡大による収益の増加、それに新たな雇用機会の創出につながることを期待されます。

ネパール最大の観光都市に水道インフラを整備

03



署名式の様子

JICA は2月15日、ネパール政府との間で「ポカラ上水道改善計画」を対象に48億1300万円を限度とする無償資金協力の贈与契約を締結しました。

ネパール第2の都市であるポカラ市は、年間約23万人の観光客が訪れる同国最大の観光都市ですが、浄水場の未整備や配水管の老朽化などが問題となっています。そのため適切な水質管理がなされておらず、半数以上の家庭用の蛇口で水道水の濁度が飲料水基準を上回り、98%の蛇口で大腸菌が検出されています。また、週7日給水を受けられる住民は21%に留まり、23%もの住民が週1日しか給水が受けられない状態です。

本事業では、ポカラ市とその周辺に浄水施設や配水管などを整備することで、対象地区における給水水質の改善と週7日給水を実現させることを目的としています。同時に、水道管の更新や給水圧の適正化を通じた漏水量の削減などによって、同地区を管轄するネパール水道公社ポカラ支所の収益が増加し、水道事業の経営とサービスの改善につながることを期待されています。